

信州 ESD コンソーシアム 令和3年度成果発表&交流会
～実践記録～

1 学校名：飯田市立和田小学校

2 対象：3年生 2名 4年生 6名 計8名

3 活動内容

(1) 活動名 お茶の収穫から販売へ

(2) 活動の目標

- ・ 地域の方と一緒に、お茶を収穫したり販売したりすることで、和田小学校について知ってもらい、持続可能な和田小学校をめざす。
- ・ 身近な自然の中での体験や活動を通し、南信濃の豊かな自然を守っていかうとする気持ちを育てる。

(3) ESD の視点、育成する資質・能力

①構成概念

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 多様性（多種多様な現象が起きていること） | <input type="checkbox"/> 公平性（一人ひとりを大切に） |
| <input checked="" type="checkbox"/> 相互性（関わりあっている） | <input checked="" type="checkbox"/> 連携性（互いに連携・協力すること） |
| <input type="checkbox"/> 有限性（限りがある） | <input checked="" type="checkbox"/> 責任制（責任を持って） |
| <input type="checkbox"/> その他（ ） | |

②育成する資質・能力

- | | |
|---|---|
| <input type="checkbox"/> 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 他者と協力する力 |
| <input type="checkbox"/> 未来像を予測して計画を立てる力 | <input type="checkbox"/> つながりを尊重する態度 |
| <input type="checkbox"/> 多面的・総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 進んで参加する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> コミュニケーションを行う力 | |

(4) 関連する SDG s

1 2 つくる責任 つかう責任

1 5 陸の豊かさを守ろう



<p>10月24日 11月21日 ⑤お茶の販売</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 飯田市天龍峡で開催された「天龍峡マルシェ」のブースを借り、「わだっ子茶」を販売する。50g入りの袋を400袋余り、午前10時から12時過ぎまでの間、精一杯販売した。 ・ 南信濃芸術祭で行われた街道縁日で「わだっ子茶」を地域の方々に100袋以上販売した。販売活動も2回目になり、自信をもって取り組む様子が見られた。 	
-------------------------------------	---	---

4 活動の成果

《子どもたちの振り返りカードより》

- 一つの若い枝に若葉が三枚ついている部分を取ります。これを「一芯三葉」と言って、お茶摘みではよく使われる言葉です。このことは今まで知りませんでした。一緒に摘んでくれた人に教えてもらって、言葉通り若葉の部分で摘めるようになりました。若い芽をよく見てたくさん摘みました。全部で150キロになりました。初めてだったけどたくさん摘むことができ、しかも去年よりたくさんになって嬉しかったです。
- 10月11日にお茶の袋詰めをしました。わだっ子応援隊の人たちに助けられました。50gきっちり合わせたり、こぼさないように入れたりするのが難しかったです。いくつも入れていくとなってきたので、苦労しないでできるようになってきました。みんなで協力して袋詰めが出来て、時間通りにできてよかったです。これも町の皆さんが手伝ってくれたおかげです。私は、わだっ子応援隊の人たちには、感謝しなきゃいけないと思いました。
- お茶販売のため、袋にシールを貼りました。500枚以上ありました。大変でした。クシャクシャになったり、ななめになったり、ずれたりしたこともありました。真ん中に貼り、しわにならないように気をつけて作業をしました。商品として恥ずかしくないように気をつけて貼りました。
- 天龍峡マルシェでお茶を売りました。最初はお茶売り係でした。お茶売り係は、お客さんが頼んだ数だけお茶を渡して、お金を払ってもらって、おつりがあればおつりを渡すことをします。素早く計算をして、お客さんにおつりを渡します。1袋300円だったので、3の掛け算をすればすぐ計算できました。30分たつと交代なので、呼び込み係になりました。呼び込み係は、「お茶売ってるよー」と言って人を呼ぶ係です。大きな声で「お茶売ってるよー」と呼び込みをしましたが、一人も来ません。教頭先生がいたところは、全員ほぼ買ってくれるのに、なんでだろうと思って考えたことは、教頭先生がいたところだと、お茶売り場が見えるから買ってくれるんだと思ったので、お茶売り場がどこにあるか指で指しながら「お茶売ってるよー」と言いました。でも結局一人も来なかったです。疲れたので、一回お店に戻って休憩してから、お店の前に立って一番大きな声で「お茶売っているよー」と呼び込みをしたら、まあまあ人が来てくれたのでこっちの方が効率が良いと気づきました。

このような児童の振り返りから学習の成果を次のように考える。

- ① 地域の方とかかわる中で「一芯三葉」という言葉を知り、実際に言葉通りによく見てやってみる姿や、まちの皆さんが袋詰めを手伝ってくださったことへの感謝の気持ちが育まれている。
- ② 地域の皆さんとの対話を通し、児童が自分の家族以外の方と触れ合いをもつ大切な機会となった。
- ③ お茶を買ってもらうためには、「50gきっちり」「こぼさないように」「しわにならないように」「商品として恥ずかしくないように」などと、丁寧かつ慎重に相手意識をもって取り組むことができた。
- ④ わだっ子茶の販売を通して、かけ算や引き算を素早く計算することで、実体験から計算力を身につけることにつながった。
- ⑤ 販売活動の呼び込み係の体験から、「なんでだろう」「どうしてだろう」と自問することで、自分の考えを行動して試し、振り返り、さらに考えてやってみるなど、問題解決的に活動が進められ、達成感や成就感を得ることに繋がった。

5 指導方法・体制の工夫

- 地域とともに、持続可能な和田小学校について考え活動をしている。
- 豊かな自然を満喫しながら、児童がのびのびと活動している。
- 学校運営協議会の委員の皆さんや、地域ボランティア「わだっ子応援隊」の皆さんが、積極的に児童とかかわっている。
- 毎年、受け継がれてきている活動であり、来年度以降も継続される。
- 地元のみならず、東京都品川区立品川学園や郁文館グローバル高校とも交流があり、全国へ向けて発信している。